

想定した経営類型 キウイフルーツ(露地)

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴
キウイフルーツ (ハイワード) 露地20a (動噴防除体系)	人  2.0	キウイフルーツ	a 20	1.無袋栽培
		合計	20	
		経営耕地面積	水田 130a 樹園地 20a	
経営目標	1 農業総収入	2,205 千円	4 1日当たり農業所得	16,472 円
	2 農業経営費	1,476 千円	5 1人当たり年間労働時間	177 時間
	3 農業所得	729 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
					千円		千円
建物・施設	果樹棚	2	平棚鉄支柱	1	3,205	14	114
	作業収納舎66㎡	1	軽量鉄骨	1	6,238	24	260
	計				9,443		374
農機具	トラック(軽)	1	0.35t積み、4WD	1	1,500	4	188
	小型運搬車	1	3kw、リフトダンプ付き	1	389	4	49
	動噴	1	22L/min	1	192	7	14
	刈払い機	2	排気量20.6cc	1	68	7	5
	薬採取機	1		1	148	7	11
	開薬機	1		1	231	7	17
	計				2,528		282

3. 技術体系(キウイフルーツ:ヘイワード)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 せん定 枝誘引	12月 ～ 1月	トラック	1	32	32		<ul style="list-style-type: none"> <li>・負け枝を作らないように留意する。</li> <li>・垂主枝が強大になり過ぎないようにする。</li> <li>・結果母枝は、棚面に均等に配置する。</li> <li>・結果母枝の目安 3～4本/m<sup>2</sup></li> </ul>
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	11月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌改良資材は土壌診断結果に基づいて施用する。</li> <li>・施用後は土とかるくかき混ぜる。</li> </ul>
草生管理	草刈り	4～ 9月	刈払機	1	10	10	稲わら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌水分を保持し、干害防止のため、梅雨明け直前に敷きわらをする。</li> <li>・除草剤は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。</li> </ul>
施肥	基肥 夏肥	11/上 6/上	運搬車	1	6	6	配合肥料 (N:8%)180kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施肥量は、土壌の種類、樹勢、収量等により調節する。</li> <li>・基肥重点とし、施用後土と軽くかき混ぜる。</li> <li>・生育の旺盛な肥沃地では、春肥の窒素を控えめにする。</li> <li>・年間の窒素分施肥割合 基肥 夏肥 70% 30%</li> </ul>
防除	薬剤散布等	3～12 月	動噴	2	13	26	1回の散布量 300～500L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用薬剤、散布時期、使用回数は県病害虫防除基準による。</li> <li>・病害虫の発生動向を十分把握し、適期防除に努める。</li> <li>・花腐細菌病対策として4月下旬に主幹部をナイフで5mm幅に環状剥皮する。</li> </ul>
新梢管理	芽かき 捻枝 摘心 誘引	4～ 8月		1	20	20	誘引ひも 2巻 テープナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主枝、垂主枝上の芽は次年度に使えるもの以外はなるべく芽かきする。</li> <li>・結果枝本数は15葉程度のものであればm<sup>2</sup>当たり12本以内とする。</li> <li>・結果枝は10～15葉目が展葉したころ配置を考慮して棚付けする。</li> <li>・棚下が暗くなり過ぎないように注意する。</li> </ul>
摘らい授粉	摘らい 花粉採取 授粉	5/中 ～ 下	葯採取機 開葯機	1	12	12	純花粉量 8～16g	<ul style="list-style-type: none"> <li>・側花や小花は摘らいする。</li> <li>・人工授粉は、開花3日後までにていねいに行う。</li> <li>・花粉は石松子で10倍に希釈して使用する。</li> </ul>

3. 技術体系(キウイフルーツ:ハイワード)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
摘果	摘果	5/下 ~ 6/中		1	16	16		<ul style="list-style-type: none"> <li>・落弁5日目より摘果を始め、20日目頃に傷果、小果、変形果を除いて仕上げ摘果をする。</li> <li>・果実の接触部位はハマキムシの被害を受けやすいので、摘果するか袋かけを行う。</li> <li>・着果数の目安 22,000~25,000果</li> </ul>
果実肥大促進	環状剥皮	6/下 7/下		1	2	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹部に環状剥皮を5~7.5mm幅で2回行う。2回目は1回目の約30日後に実施する。</li> <li>・樹勢が低下している樹では行わない。</li> </ul>
収穫出荷	収穫調整出荷	11/中 ~ 1/中	トラック	2	18	36		<ul style="list-style-type: none"> <li>・10果をランダムにサンプリングし、糖度7.0を目安に収穫時期を決定する。</li> <li>・収穫した果実は収穫した後は、できるだけ早く出荷するか、貯蔵庫に搬入する。</li> <li>・果実はていねいに取り扱う。</li> </ul>
その他	作業道排水溝防風垣の整備 災害対策など	1~ 12月		1	10	10		
計						177		

4. 品目の作付体系

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
キウイフルーツ (露地)	◆ せん定		↑	新梢管理	※	摘果 環状剥皮 施肥	環状剥皮				■ 施肥	◆◆

注) 生育ステージ記号 ↑: 発芽 ◎: 着果始め ※: 開花 ■: 収穫 ◆: 出荷

